阿蘇の素晴らしさを、阿蘇の人に知ってもらう、阿蘇の人のための情報紙。

aso lulu【アソルル】

lulu(ルル)=素晴しい魅力という意味。

since 2012

vol.20
2020
FREE

繋がる阿蘇

YAMAP×阿蘇DC

「ASOロゲイニング大会 in 西原村」

里山を駆け巡りながら、自然と文化を楽しむ
「ASOロゲイニング」が2019年秋、阿蘇郡西原村で開催されました。

2019年11月17日、阿蘇で初開催となった「ASOロゲイニング大会 in 西原村」には、親子連れなど県内外から60名、13チームが参加、俵山交流館 萌の里をスタートに西原村内の神社や牧場、特産グルメのお店や阿蘇の清流が流れ落ちる滝など50地点のチェックポイントを目指しました。
ロゲイニングの面白いところは、獲得するチェックポイントとそこに至るコースを自分で決められること。さらに今回はバスへの乗車も認められていたため、発車時刻なども勝敗を分けるポイント!
ゴールに向かう大通り沿いにある低得点のポイントを全て押さえるコースや、遠くに行って高得点のポイントを狙うなど、チームによって作戦はバラバラ。みんな真剣に考えていました。また、ロゲイニングを通して「こんなところもあったのか!」と改めてその地域の魅力に気づくのも醍醐味のひとつです。
更に、参加者には当日の様子を収めた写真を募集する、フォト部門賞も実施。歩く目線で阿蘇の様々な美しい景色が集まりました。
ロゲイニングは、美しい自然と郷土の文化、魅力を発見できる「阿蘇」にぴったりのアクティビティーです。今後も、魅力ある阿蘇を満喫できるロゲイニング大会を開催する予定です。

フォト部門賞

最優秀作品賞
「冬水田んぼは見たか〜?」
撮影者:まーさん

優秀作品1
「冬水田んぼのそら」
撮影者:ひさぽんさん

優秀作品2
「俵山」撮影者:ICHI*KEIさん

優秀作品3
「空をみあげてごらん」
撮影者:こーへーさん

ロゲイニングとは・・・

ロゲイニングとは、スポーツをしながら大自然に触れ、市町村の観光も楽しむことができる新感覚アクティビティー。

地図とコンパスを使って、制限時間内にできるだけ多くのチェックポイントをまわり、合計得点を競うチームスポーツです。

コースは決められておらず、チェックポイントを効率的に選んで得点を稼ぐ「計画性」や、チームの体力などを鑑みてその特徴を最大限に活かす「チームワーク」が求められます。

参加者の活動データ例
https://yamap.com/maps/10033/activities

ロゲイニングの魅力

ゲーム感覚で観光地を楽しめる

チームで楽しく参加できる

魅力の再発見

参加者の声

ほいたんさん

ロゲイニングは初めてでしたがすごく楽しくて、またぜひ参加したいです。西原村の復旧した橋、地震でずれた断層、のどかな水田風景が心に残りました。とても良い場所でしたので、またゆっくり訪れたいと思います。

ひさぽんさん

初めてロゲイニングに参加しました。西原村の住民ですが、歩いてみると、新しい様々な西原村を感じることができました。結果3位になっちゃいましたが、非常にびっくりしながら、大満足の充実した一日でございました。

ツーリズムEXPOジャパン2019 大阪・関西

2019年10月24日から27日の4日間、大阪市のインテックス大阪において「ツーリズムEXPOジャパン2019 大阪・関西」が開催されました。このイベントは、海外旅行、訪日旅行及び国内旅行振興のために開催される世界最大級の旅の祭典で、期間中、約15万人もの来場があった中、当財団もAATA（阿蘇広域観光連盟）と連携してブースを出展し、阿蘇地域をPRしました。

24、25日の2日間で行われた、旅行業などの業界関係者に対する商談会では、全国の旅行業者に阿蘇地域の「売り込み」を行いました。一般のお客様を迎えた26、27日の2日間は、地元でとれた新米を振る舞うため「お米のつかみどり」を実施。たくさんのお米をつかむ方、思うようにつかめない方など様々でしたが、多くの方に楽しんでいただきました。また、ブースにはくまモンも応援に駆け付けてくれ、大盛況のなかで阿蘇の魅力を発信することができました。

阿蘇地域元気

① 阿蘇市

田子山再開発プロジェクト

事業実施主体／内牧温泉ツーリズム研究会
代表 今村聡
実施場所／阿蘇市三久保
期日／2020年2月1日～3月末

田子山の環境整備を行い、内牧温泉及びその周辺を訪れる方の滞在時間の延長を図りました。

郷土の偉人 北里柴三郎顕彰事業 ～北里柴三郎は何を研究し何を伝えたか～

事業実施主体／ゆうステーションカンパニー
代表取締役専務 高橋正之助
実施場所／道の駅小国 ゆうステーション
期日／2019年10月28日～2020年3月15日

細菌の研究、予防医学の基礎を確立した北里柴三郎博士の偉業について情報発信を行うとともに、ウォーキングイベント等を開催しました。

③ 小国町

小国フォレストワーカー PR映画作成事業

事業実施主体／小国町森林組合
代表理事組合長
時松昭弘
実施場所／小国町一円
期日／2019年9月1日～
2020年2月3日

若手新人職員が森林組合に入社したところから一人前の林業担い手になるまでを映像にし、WEB上で発信しました。

WOOD JOY OGUNI
～ 町ちゃん山ノさむらいになる ～

⑦ 西原村

熊本県西原村と沖縄県西原町（ニシハラチョウ）の交流事業

事業実施主体／山河塾（西原村商工会青年部・JA青壮年部）
委員長 桂志郎
実施場所／西原村風の里キャンプ場
期日／2019年8月19日～21日

同じ「西原」を冠する沖縄県西原町（にしはらちょう）と熊本地震からの復興・復旧活動を通した交互交流を行いました。

八王社例大祭 鬼神どんまつり

事業実施主体／宮山八王社例大祭まつり
実行委員会 会長 中村辰則
実施場所／八王社
期日／2019年11月23日

数百年続く神楽の舞「鬼神殿（きじんどん）」の奉納及び地区の有志による屋台を行い、地域の活性化につながりました。

⑥ 南阿蘇村

「元気を取り戻せ」観音桜整備事業

事業実施主体／第二部造林組合 観音桜管理部
代表 今村法友
実施場所／南阿蘇村 観音桜公園
期日／2019年12月1日～2020年3月31日

樹齢100年近い一本桜「観音桜」を維持するため、樹木活性化事業及び電気牧柵設置を行いました。

九州山地神楽祭り

事業実施主体／
九州山地神楽祭実行委員会
会長 梅田穣
実施場所／
蘇陽総合行政センター
大研修室
期日／2020年1月25日

各地区で継承されている神楽を披露し、伝統文化の保存と継承を一層図りました。

再生支援事業

② 南小国町

ドローンフォトコンテスト事業

事業実施主体／南小国町観光協会 会長 平野直紀
実施場所／熊本県阿蘇郡南小国町一帯
期日／2019年8月1日～12月31日

「ドローン手形」などの取り組みの加速化、ドローン利用者への認知度拡大および空撮素材の収集を目的としたフォトコンテストを開催しました。

湯あかりの町全体への拡大とフォトコンテストの開催事業

事業実施主体／南小国町観光協会
会長 平野直紀
実施場所／南小国町一帯
期日／2019年11月15日～2020年3月31日

南小国町全体の冬の風物詩として定着しつつある湯あかりの実施及びフォトコンテスト等を開催し、町内外の交流を図りました。

④ 産山村

秋の行楽シーズン集客事業

事業実施主体／産山村役場
企画振興課
村長 市原正文
実施場所／うぶやま牧場
期日／2019年10月19日

雨天のため
中止となりました

池山水源整備事業

事業実施主体／産山村 村長 市原正文
実施場所／池山水源
期日／2019年10月1日～2020年3月31日

池山水源内の景観を阻害しているベンチや看板の補修及び看板等の多言語化を行い、もう一度訪れたくなる観光地へ造成しました。

⑤ 高森町

花露の詩 福嶋由紀ソプラノコンサート

事業実施主体／環境省自然保護指導員阿蘇協議会
会長 山村將護
実施場所／高森総合センター
期日／2019年6月22日

自然保護の重要性を図ってもらうためのコンサートを開催しました。

第2回 みなみ阿蘇・野の花コンサート ～はなしのぶ～

事業実施主体／みなみ阿蘇・野の花コンサート実行委員会
委員長 椛田聖孝
実施場所／休暇村南阿蘇「阿蘇野草園」
期日／2019年6月16日

生物多様性の保全のため、コンサート及び観察会を開催し、動植物の写真展示や自然保護関係団体の活動紹介も行いました。

第32回 新酒とふるさとの味まつりラストイベント

事業実施主体／高森町観光協会 会長 村上誠治
実施場所／高森町観光交流センター
期日／2020年3月15日

新型コロナウイルス感染拡大防止の為
中止となりました

⑧ 山都町

蘇陽峡もみじ祭

事業実施主体／蘇陽峡もみじ祭実行委員会
会長 寺崎彰
実施場所／蘇陽峡
期日／2019年11月9日、10日

秋の紅葉シーズンに訪れる観光客に、山都町のPR及び物産の販売等を行い、交流促進及び観光・産業振興を図りました。

阿蘇地域元気再生支援事業とは…
阿蘇地域振興デザインセンターでは、その地域独自の資源を活かした取組みや、伝統行事再生に向けた試み、地域に根差したイベントの実施、熊本地震からの復興に向けた活動など、魅力ある地域づくりと地域の活性化を図ることを目的とした事業に対して助成を行っています。

イベントリポート

2020年1月18日10:00〜16:30
木の葉モール橋本（福岡県福岡市西区橋本2丁目27-2）

「Asoへ行こう！Asoに住もう！フェア」が開催されました。

阿蘇地域に移住をお考えの方や
阿蘇地域に興味を持たれている方を対象に
福岡市西区にある木の葉モール橋本で、
阿蘇の観光情報や移住相談会、移住体験ツアーの募集、
地域おこし協力隊の募集等のイベントが開催されました。

会場では、各自治体のブースで職員やスタッフが
パンフレットなどの資料を通して
自治体の取り組みや支援内容等を説明しながら
参加者の方たちと笑顔で交流していました。

また、観光や移住に関しての
アンケート調査も行われ、ご協力頂いた方には
阿蘇小国ジャージー牛乳が振舞われました。

阿蘇地域でとれたお米のつかみどりやくまモンの登場などで、
会場は大勢の人たちで賑わっていました。

各市町村ごとに、くまモンと一緒に観光PRもしましたよ！

小国町
「日本細菌学の父」として知られる医学者・細菌学者の北里柴三郎の生涯の地です。温泉もありますよ！

産山村
大草原でウサギを追いかけるイベントがあります。うぶやま牧場周辺の草原の中で野うさぎを探しますよ。みなさん、是非ご来場ください。

阿蘇市
阿蘇山があり、噴火活動を続けています。草千里などの美しい景色が見られるのも特徴です。皆さん、遊びに来てください！

南小国町
黒川温泉があります。それ以外にも5つの湧泉があります。是非、遊びに来てください！

高森町
阿蘇五岳のひとつ根子岳が見えるりんご園があり、りんご狩りが楽しめます。遊びに来てくださいね！

南阿蘇村
空き家情報を発信して移住定住にも力を入れています。桜の時期は一心行の大桜を是非見にいらしてください。

西原村
地震を乗り越え頑張っている姿を皆さんに見てほしいです。自然、空港、街も近いので、興味のある方は移住定住で引っ越してきてください！

移住定住
埼玉から引っ越してきて、不動産関係の仕事をしています。移住者でもある自分だからできるサポートができたらと思っています。

林業
阿蘇の自然の中で暮らしたい方へ、就職の面でのご案内として林業の説明をしています。関心のある方は気軽にお尋ねください。

山都町
山都町の位置は九州のへそと言われています。国指定重要文化財の通潤橋は4月から放水再開予定です。是非お越しください！

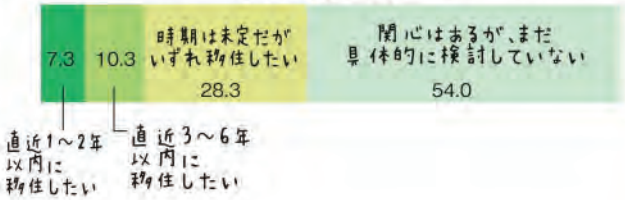
調査報告

阿蘇地域移住意向調査報告

阿蘇デザインセンターでは、2019年7月に阿蘇地域への移住定住についての意向調査を行いました。阿蘇を訪れたことがある人で、他県への移住に関心がある福岡県内の20～65歳の男女を対象に行ったところ、移住への興味や目的についてさまざまな意見が聞かれました。

福岡県居住者にとって阿蘇地域は、観光地として近しい存在で、また移住に関心を持つ層が一定数いることがわかりました。移住先に阿蘇を想起させる意味でも、阿蘇地域に住むことの良さや魅力発信を幅広くPRし、居住への憧れを醸成していきたいと思います。

移住意向度



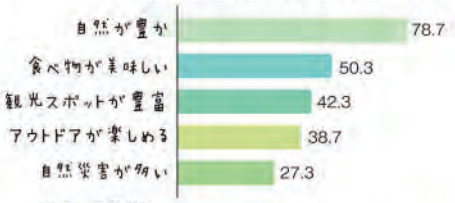
関心ある移住先

1位 大分県（別府、湯布院周辺）
2位 熊本県（阿蘇周辺）
3位 沖縄県
4位 大分県（九重周辺）
長崎県
5位 佐賀県

住んでみたい阿蘇地域8市町村

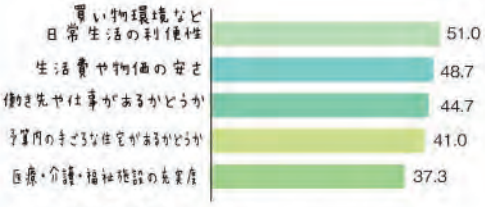
1位 阿蘇市
2位 小国町
3位 南小国町
4位 南阿蘇村
5位 高森町

阿蘇地域のイメージ



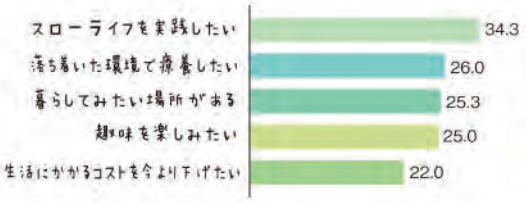
〈その他の意見〉
農業が盛ん、人柄が良い・人情に厚い、歴史がある など

移住の重視点



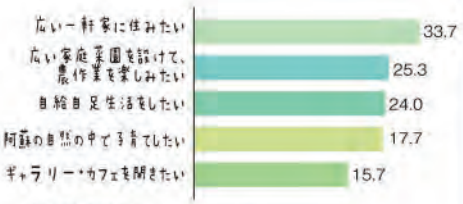
〈その他の意見〉
公共交通機関の利便性、移住先の人間関係、
自治体の支援制度、災害対策の充実度 など

移住の目的



〈その他の意見〉
豊かな自然の中で子育てをしたい、
自分・パートナーの故郷に帰郷して暮らしたい など

阿蘇地域で実践してみたいこと



〈その他の意見〉
阿蘇ならではの食材や特産品を生産・販売したい、
阿蘇で観光の仕事をしたい、
阿蘇の伝統や文化保全に関わりたい など

移住定住体験レポート

南阿蘇村 編

南阿蘇村両併の小佐井さん宅に移住体験されたのは、福岡市にお住いのご夫婦と愛犬1匹。
まずは南阿蘇村名物「そば打ち」の体験をしていただきました。ご夫婦は南阿蘇村が大好きで、これまで何度も訪れたことがあったとのことですが、「そば打ち」は初めての体験。ご自分で打ったそばを味わい、大変満足頂いたようです。
その後、小佐井さん宅で移住を体験。移住の先輩でもある小佐井さんご夫婦のお話を聞きながら、夜遅くまで意見交換をされたとのことでした。
1泊2日の体験でしたが、さらに南阿蘇村のことを好きになってくれたご様子。「仕事の都合もあり、今すぐには無理だが、定年後には南阿蘇村への移住を検討したい。」と話してくださいました。

阿蘇市 編

阿蘇市のゲストハウス「ASONOWA」に福岡市からお友達、女性2名でご参加いただきました。
福岡市からバスで来られ、阿蘇市内牧のスイーツまちめぐりをしていただきました。スイーツをつまみながらゆっくりまちを歩くことで日頃見過ごしている街を楽しむことができました。夕食は、阿蘇地域ならではの「高菜めし」や「だご汁」を食べながら「ASONOWA」のオーナー坂梨さん、井野書店の井野さんから内牧地域の魅力やあか牛のお話など遅くまで話が尽きませんでした。翌日は小国町のコミュニティFMに生出演。参加者からは「今後の移住する材料にしたい。」と話していただきました。

ミニ

インフラ復興

繋がる

01 阿蘇市

繋がりの可能性

道の駅阿蘇
NPO法人ASO田園空間博物館
マネージャー 下城卓也

私たちNPO法人ASO田園空間博物館は、道の駅阿蘇を核として多くの人達と繋がってきました。
行政関係者、地域の農商工業者、学校、観光客の方々とも様々な活動を通して連携してきました。
特に自分達の地域にある地域資源を利活用し、地域振興活動や地域コミュニティの存続を目指す方々との連携は、私たちの最初の活動の一つでした。
これらの繋がりの中で、徐々にですが新たな連携による活動が生まれてきました。
それは今まで繋がっていなかった人達が、私たちがハブとなることで連携し、新たな活動が生まれるというものです。
例えば、面識がないあか牛生産農家とお弁当販売者、地域の高校を繋げ、あか牛を基にした商品開発を行っていることなどが上げられます。
他にも地域以外の人々と地域内の人を繋げる活動も動き出しました。地域資源を利用して地域振興活動を行ってきた方々と地域以外のコスプレイヤーのグループを繋げ、特徴的な風景のある地域資源でコスプレを行ってもらうという活動を計画しています。
こういう新たに動きに関われるのは本当にワクワクしますし、今後も続けていきたいと考えています。
皆さんも、新たな繋がりの可能性を探してみてください！

02 南小国町

息づく文化
暖か～い阿蘇の
人々が好きです

〈株〉SMO南小国
ワル・マックス

はじめまして！ワル・マックスと言う、平成元年生まれの阿蘇に惚れ込んだスウェーデン人です。名字をカタカナにするとたまたま「ワル」になるので、よく「極悪やん！」と突っ込まれます。変な名前ですが、よろしくお願いします。
2018の年が終わりを迎える頃に日本へ移住して、2ヶ月がまだ経たないままで、南小国に住民票を置き、長年夢見た里山暮らしの幕が開きました。スウェーデンにないような偉大な自然に囲まれ、昔から根付いている深い文化を肌で感じ、美味しい食べ物をお腹いっぱい食べ、そして何よりも暖か～い人々に感動を受け、心のそこから南小国と阿蘇が好きになりました。今はSMO南小国というまちづくり公社で、ツアー事業をはじめ、様々なインバウンド向けの取り組みを担当したり、記事や動画で阿蘇の魅力を発信させて頂いています。
僕から見ると阿蘇はただ美しい場所ではなく、大昔から引き継がれている自然や季節と共存している人々の営みが形成した素晴らしい環境です。環境問題が深刻化して、世界中には異常現象が相次いでいる中で、この地球を引き継ぐ将来の子供達のためにも世界が一つになろうとしています。それで、持続的可能な地域の代表として阿蘇がその前方に立てるポテンシャルを秘めているのではないかと感じています。僕はまだまだ知識が浅くて知らないことが山ほどありますが、これからは阿蘇をより深く知り、世界と阿蘇の架け橋になれる存在を目指して頑張っていきたいと思います。
南小国の物産館きよらカァサに寄ることがあれば、観光協会の事務所に顔を出して、気軽に声をかけなっせ～！よろしくお願いします！

05 高森町

阿蘇の宝
南郷檜を守ります

TAKAraMORI（たからもり）
木工職人
吉村 千夏子

阿蘇には『南郷檜』（なんごうひ）というとても珍しいヒノキがあります。TAKAraMORIでは、この貴重な南郷檜の間伐材や端材、枝打ちの時の枝葉等、通常は山に捨てられてしまう部分を活用した商品の製作・販売の他、木育体験を通し、子供たちを中心に南郷檜を広める活動にも取り組んでいます。
主な商品は、精油や化粧水、ウッドフラワー等の雑貨やキーホルダー等の小物類からテーブル等の大型家具があり、販路開拓により、昨年からは東京のお店でもお箸の販売が始まりました。
商品製造の際、自分たちで山に入り材料収集から製材加工まで行うため、手間や労力を要しますが、林業家さんや地域へ

コラム

る 阿 蘇

03 小国町

秋の温泉感謝祭にお越し下さい

わいた温泉組合長
石松 裕治

熊本県と大分県の県境に位置するわいた温泉郷は、小国富士とも呼ばれる涌蓋山麓（わいたさんろく）に広がる、6箇所ある温泉地の総称です。源泉掛け流しのお湯が楽しめるコインタイマー式の露天風呂が人気です。組合長の石松裕治さん（45）は、組合長として2回り目、以前は輪番制だったそうですが、やはり、若手として企画力を期待され、推されたようです。「課題は温泉施設（町の指定管理）の運営なのですが、公設なので、地元の高齢者の利用が多いですので、なるべく料金を低くさせて頂いてます。なんとか、スタッフの人件費など経費を捻出できれば･･･。と石松さん。会話の中で、「これも地域貢献と考えています」とのこと。毎年10月中旬には、豚汁、地熱で蒸した赤飯をふるまい、入浴料は無料の温泉感謝祭を実施、多くの人で賑わっているそうです。
石松さんは貸切り温泉を経営、今年で20周年になるそうです。「源泉が熱く、25度の温泉を加えて調整し、100%源泉かけ流しですね」と石松さん。この地区には蒸気が吹き上げる湯畑があり、「組合の業務ではないのですが、安全に人が集える公園整備を企画中です」と語ってくれました。

04 産山村

水と緑の生まれる里
産山村で待っています

産山村観光協会長
井 龍次

昨年8月に産山村観光協会長に選出された井龍次さんは、まだ42歳の若手。「（施設の）数は少ないから、やりやすい。スタンプラリーなどで特徴のあるいろんな店をつなぎたい」と井さん。「移住されて商売を始めた方もいます。そんな方の外の意見や前からいる人の内の意見、都市部の考え方などを聞き入れていきたい」と続け、環境省指定日本名水百選に選ばれている村の名所、池山水源のライトアップを企画中で「映像や電気関係の方と思案しています。ホタルを驚かせないようホタルシーズン後の8月以降に実施できたらと思います」と話されました。こんこんと湧き上がる水面と樹齢200年以上の杉等の巨木を照らし出すライトアップは幻想的な世界へ導くことでしょう。
井さんのお店「山水亭」は、23年前お父さんが地産地消の店として始めました。人気のグリーンカレーオムライスは、産山名産「チンゲン菜」を練り込んだ色で、身体にも優しいヘルシーなカレーです。リピーター客も多く「昔は口コミ、今はSNSで発信してくれます」と井さん。井さんは、水と緑の生まれる里、産山村の観光を自然体でリードしているようです。

の利益還元に繋げるため、地域の雇用を創出し、持続可能な活動を目指しています。
また、精油抽出の際に出る搾りかすを畑にまいて肥料にし、小枝を体験イベントにて小物づくりに活用するなど、すべての資源を無駄にしないよう心がけています。
そしてこの度、個人の木工ブランド『ちのや』を立ち上げました。オリジナル商品の製造・販売に加え、今後も地域の方と一緒に“阿蘇の宝”である南郷檜を守る活動を続けていきたいと考えています。
インスタにて情報発信中。応援よろしくお願いします！

ミニコラム

インフラ復興

繋がる阿蘇

06 南阿蘇村

阿蘇の魅力を より長くより大きく 伝えたい

松ノ木ムラしるべ研究会

事務局長
前畑 恵梨子

何をしている人なのかとよく聞かれます。家族や協力してくれる方々のおかげ様で、色々と好きなことをやらせていただいています。
農業体験イベントをやっています。南阿蘇の美しい景色の中、種を蒔き、草を抜き、収穫してもらいます。南阿蘇で農業をすることに興味を持ってもらったり、南阿蘇の農産物を選ぶきっかけとなれば嬉しいです。
ゲストハウスを始めました。リノベーションした牛小屋に泊まり、近所であか牛の餌やり体験や、地元のおばあちゃんと一緒に行く集落散歩ができる宿です。南阿蘇の暮らしを体験してもらい、南阿蘇を好きになってもらえれば、あわよくば「住みたい!」と思ってもらえれば最高です。
名刺やラベルのデザイン業をしています。デザインの持つ発信力を気軽に取り入れていただくことで、南阿蘇で頑張っている人の力に少しでもなれればいいなぁと思っています。
色々とやっている私ですが、要は、人や景色といった南阿蘇の魅力がよりながく、より大きく続いていくための何かがしたいのです。阿蘇では、同様の想いで行動されている方が少なくないように思います。そういった方々と繋がり、一緒に色々と進めていければ幸いです。

07 西原村

西原村が繋げる観光

一般社団法人 西原村観光協会

副会長
坂口 奉弘

私は、西原村に移住して9年が経ち、一昨年より西原村観光を構築する為に一般社団法人西原村観光協会のプロジェクトに参画しております。
今まで西原村は、阿蘇に行く観光客の通過点で『主要道路が南阿蘇や阿蘇に繋がっているだけ・阿蘇という大きな魅力と繋がっているだけ』で、通過する観光客などに対して、お店(飲食店等)が各々商売を行なって来た状態でした。
これからの西原村観光の発展を考えると、西原村の魅力を地域の人々がしっかりと再認識し、認識するだけではなく魅力を『伝える事』が今の西原村には重要だと捉えております。
阿蘇を見た時の西原村は、南阿蘇方面への出入り口であり、始まりと終わりの場所です。始まりと終わりがなければ物語は作れませんし語れません。
インバウンドの重要性が高まっている現状で、外国人観光客を熊本に呼び込む事を考えるならば、『MountainASO』は熊本観光の一番の魅力だと言えます。阿蘇に関わる地域は、ただ阿蘇と繋がっているだけでは、本当の阿蘇の魅力を世界に発信する事は出来ないと思います。
国道57号線や豊肥本線の復旧が間近に迫り、インフラの整備が進み、観光客に対してもっとも重要な、観光客と阿蘇を繋げる動線が整います。自ずと阿蘇を訪れる人が増加すると思いますが、今まで以上の阿蘇の魅力の構築と発信が重要だと思います。
西原村は『熊本と阿蘇、世界と阿蘇を繋げる』場所としての観光を考え、『阿蘇観光の物語』を作る為に、西原村の魅力を外に伝える事の重要性を地域全体で考え、地域と共に行動する事が、阿蘇の魅力の最大化に繋がって行くと感じております。

08 山都町

かぁちゃん シェフと絶品! 山彩バイキング

泊まれる道の駅 そよ風パーク

興梠 和明

開業以来24年間、同じ味を提供しているレストランがある。九州のへそに位置するそよ風パークの「キッチンマアム」だ。
その名の通りこのレストランのシェフは地元のかぁちゃん。とれたての新鮮野菜や山菜でつくる創作郷土料理は毎日30種類以上が大皿に盛られる。
旬の食材のほか山間地ならではの保存食の乾物なども多く利用されているのも特徴で素材の旨味が引き立つ味付けは、どこか懐かしく、また食べたくなる絶品バイキングとして、今では県内外や海外から年間3万人を超える人々がその味を求めて訪れる。
手づくりにこだわり、地域の味を受け継ぐ「ホンモノの料理」は、小さい子どもたちを連れたママにも大人気だ。素朴な郷土料理を味わうことが難しくなった今では貴重なレストランとも言える。
地域の食文化が引き継がれ、その食材を生産する農家や代々守られてきた「地野菜」などの種の保存とともに、中山間地そのものの価値が評価される事を信じて今日もかぁちゃんシェフが腕を振るう。
皆さんも阿蘇へお越しの際は是非山彩バイキングをご賞味ください。かぁちゃんシェフと絶品料理がお待ちしております。

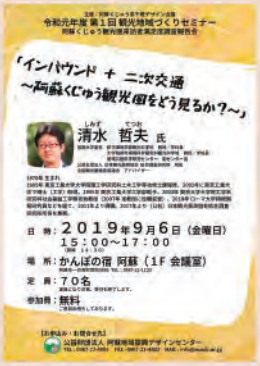
レポート

観光地域づくりセミナー・地域づくりシンポジウム 実施レポート

第１回 観光地域づくりセミナー

講師:首都大学東京教授　清水 哲夫 氏

これまでの観光では交通と観光を切り離して考えており、あくまで交通は手段であった。しかし、公共交通機関が衰退してきている現代では、アクティビティと連携させ、公共交通機関を利用しないと楽しめないものを生み出していかなければならない。
公共交通機関以外の移動手段としては、ライドシェア／ヘイリングがある。ライドシェアは自分が目的地に向かう際に同乗させるもので、ライドヘイリングは乗せた人の目的地まで送迎するタクシーのようなものである。現在日本では禁止されているが、アメリカではこれを生業にしている方もいる。今後自動運転技術等の革新により、バス・タクシードライバー不足の解消等が見込めるが、早急な地方の公共交通機関問題の解消のために導入されることを推奨する。



第２回 観光地域づくりセミナー

講師:流通科学大学教授　柏木 千春 氏

2020年に至るまで環境の変化とともに観光の活動というのは発達してきた。特に交通、移動手段。大型イベントなどがあると、そのあとにもたらすものは大きかったといえる。東京オリンピックの時には新幹線が誕生。その後ジャンボジェット機が登場し、大量に客を輸送できる手段となりパッケージツアーが誕生した。大阪万博の時には初めてファーストフードが日本に誕生した。それぞれの時代に応じて観光の活動も変化していった。2020年以降を控え、今後10年はいままで想像していなかった時代に突入していく。私たちが行ってきた地域づくりの活動は環境の変化に合わせてどのように変化していくのか考えなければならない。

令和元年度 地域づくりシンポジウム

人口減少社会における多文化共生社会を考える
～阿蘇地域における外国人材活用の現況と地域づくり～

講師: NPO法人イデア九州アジア理事長　井手 修身 氏

講演では、現在置かれている日本の人口減少について喫緊の課題であり、反対に、働く外国人は年々増え続けている。
増え続ける外国人と地域の関わりについて、しっかりと考える時期に来ている。国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、ともに生きていく社会づくりを進めなければならない。
また、外国人労働者との職場や地域でのコミュニケーションを図り、一人前の労働者として受入れ、双方がウィンウィンの関係となることが必要である。外国人を受け入れるウェルカムの姿勢が、選ばれる企業や地域になる。さらにそこには、地域をつなぐハブ機能を持つ受入れ組織が大事である。

「飛躍の阿蘇地域!」

2019年春には、毎年恒例になっている「あそフラワーツーリズム(あそ花旅)」も、平成から令和に代わる時期に開催し、たくさんの方が阿蘇地域を訪れ「スタンプラリー」を楽しんでいただきました。
秋には、阿蘇地域世界農業遺産推進協会の支援を受け、「YAMAP×阿蘇DC ASOロゲイニング大会in西原村」を開催しましたところ、ロゲイニングのポイントにこれまで構築したフットパスのコースや飲食店、商店などもポイントにし、地域の経済効果も期待できるイベントとなりました。
また、地域づくりシンポジウム「人口減少社会における多文化共生社会を考える」を2月に開きましたが、人口減少の中、外国人材の活用も今後増えていくと思われます。このような新たな時代に、地域の一員として文化の違う外国人と共生しながら地域をつくり、守り続けることを考えるきっかけとなるシンポジウムでした。
2020年度は、JR豊肥本線・国道57号・阿蘇大橋が開通し、交通インフラが格段に向上します。阿蘇地域にとってこの大切な節目を5年、10年後を描くスタート地点として捉えていただき、阿蘇地域に住んでいる人々が元気で活き活きと活躍することで阿蘇地域の魅力を高めてほしいと願っています。

(公財)阿蘇地域振興デザインセンター
理事長 吉良 清一

「ASO Recovery!」

熊本地震から4年目にあたる2020年度はJR豊肥本線、国道57号、阿蘇大橋が復旧し、阿蘇地域にとってはメモリアルイヤーとなります。
当財団でも、ASO Recovery!(あそ復興)をテーマに「未来に挑戦する阿蘇人たちのキックオフミーティング」と題した地域づくりシンポジウム開催を手始めに、総合的なアクティビティである(仮称)ASOカルデラロゲイニング大会や通年型の取り組みとしてインスタグラム選手権などを開催し、復旧・復興を全国に向け、高らかにお伝えします。
また、訪日外国人向けの対応として、九州3観光圏(海風の国・豊の国千年ロマン・阿蘇くじゅう)連携による広域周遊ルート旅行商品の売り込みや九州のゴールデンルートである別府・湯布院・くじゅう・阿蘇・高千穂エリアの各DMOと手を結び、訪日外国人及び国内旅行者への情報発信を強化する運びです。
今後とも、皆さまのご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(公財)阿蘇地域振興デザインセンター
事務局長 江藤 訓重

Thank you so much

倉田 英之

この度、1年の派遣期間を終えて地元西原村に戻ることになりました。短い期間の中で、何かお役に立つことができたとはとても言えませんが、期間中に得たこれまでにない経験とたくさんの方との出会いは、かけがえのないものになりました。また、デザインセンターで実施する様々な事業に関わる中で、自分が住んでいる西原村の良いところや課題を改めて感じることができたことも大きな収穫です。
熊本地震から4年、少しずつ元気を取り戻してきた阿蘇地域ですが、今年は大きな節目の年になります。西原村を含めた阿蘇地域全体がますます発展していけるよう、今後も尽力してまいります。1年間大変お世話になりました。

NEW FACE

興梠 宏幸

このたび山都町から派遣されました興梠宏幸です。地元の山都町東竹原地区では、地元特産のみさを大豆や南郷檜の振興に取り組んでまいりました。
阿蘇地域には私の知らない魅力がまだまだあると思いますので、現場で発見できることを楽しみにしております。
これからも、阿蘇地域の魅力発信、また阿蘇地域の熊本地震からの復興についてがんばりますのでよろしくお願いいたします。

インバウンド対応動画
https://youtu.be/16Tz8Zei6D0

「Undiscoverd Aso Kuju」配信中

阿蘇デザインセンターでは、阿蘇くじゅう観光圏のブランドコンセプトである「阿蘇カルデラ 命かがやく草原の王冠」の価値をビジュアル化したインバウンド対応動画を制作しました。
「Undiscoverd Aso Kuju」というテーマで阿蘇くじゅう高千穂地域の美しい大自然の景色や、まだ知られていない素敵な場所を集めたものとなっており、阿蘇のPRなど、様々な場面で広く活用していただきたい動画です。是非ご覧ください。

YouTubeで
『阿蘇DCチャンネル』を開設
https://youtu.be/wCdVTXlkKGQ

2019年度阿蘇DC活動報告などもアップしています!!

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4607番地1
TEL 0967-22-4801 FAX 0967-22-4802
http://www.asodc.or.jp

■発行／公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター ■発行日／2020年3月31日